学校番号（小２５）豊橋市立（牛川小）学校

令和３年度　学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和４年２月２２日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
自ら学ぶ	話し合い，学び合う授業の推進	・金曜日のトークタイムを充実させて話し合いの基盤をつくり，授業に生かす。 ・学習課題に対する個の考えに朱書きや対話で支援する。	B	B	話し合い，学び合うという授業の基盤づくりのために力を入れて取り組んだことは有効であった。学期に１回，見合うことで，質の向上にもつながった。	B	話し合いの力を伸ばしていくには，継続する必要がある。トークタイムを大切にしていきたい。	・トークタイムでついた力が，授業での話し合いにつながるようにする。 ・授業の中で，考えを深めるための書く時間を確保する。
	学習態度の育成	・時と場に応じた学習態度を繰り返し指導する。 ・よい聞き方・話し方を意識できるように前面掲示を活用する。	B		授業参観の機会が１回しかなかったことから，実際の様子がわからず，保護者の達成度が下がった。		オンライン授業参観など，タブレットを活用した機会をつくりたい。	・授業参観を学期に一回は行い，授業の様子を見ていただく。
	学びのツールとしての ICT 活用	・ICT のよりよい活用方法を研修し，授業に取り入れる。 ・タブレットを授業で有効的に活用する。	A		ICT 等の活用についての研修や実践事例を蓄積していくことが十分できなかった。子どもたちは，タブレットを使った学習に慣れる中で，よさや便利さを実感している。		タブレットは，どんどん使わせたい。その中で，学年に応じた活用方法，使い方指導をしていってほしい。	・様式を指定して，活用の実践事例等を共有する機会をつくる。 ・タブレット管理のルールや情報モラルの指導を年間計画の中に入れ込む。
	教師の授業力向上	・問題解決的な授業づくりについての校内研修を充実させる。 ・新学習指導要領の新しい学力観に基づいた研修を行う。	B		学年団や学年での授業研究を通して，実践の検証や課題の確認ができた。		研修の充実のためには，計画→実践→検証のサイクルが大切である。	・保護者を巻き込んだ学習の展開を考えていく。
豊かな心	マナーや規範意識の育成	・生活委員会を中心としたあいさつ運動を実施するとともに家庭への協力も呼びかける。	B	B	あいさつ運動禁止時期があったため，定着が難しい状況だった。あいさつし隊の活動は，少しずつ増やしていくことができた。	A	積極的ではないが，元気よく言ってくれる。数字には表れない部分もあると思う。	・あいさつを返すことを重視した活動を行う。 ・おはようだけでなく，こんにちはのあいさつもできるようにしていく。
		・学級活動や道徳で，マナーや規範意識を高める授業を行い，学校生活の中で全校職員で指導にあたる。	A		例年，豊橋学校いのちの日にあわせて，授業参観で道徳の授業を行っていたが，中止になり，授業をみる機会がなくなってしまった。		道徳の授業が保護者に見てもらえるよう，オンラインでの授業参観も考えたい。	・保護者に学校生活でのよいところを保護者会やおたりなどで伝えていく。
	本好きな子の育成	・学年ごとに年間目標冊数を設定し，子どもたちの読書への関心，意欲を高める。 ・ブックウォークを活用して学校での読書の状況を家庭へ伝え，保護者の協力を得る。	B		家庭へ持ち帰りができなかったため，家庭での読書量が減少した。タブレットの持ち帰りもあり，家庭で過ごす時間の中で，読書の時間は少なくなっていると考えられる。		本の好きな子は借りていると思う。本を知らない子たちが，こういうのがおもしろいということを知る機会をつくりたい。	・日々の音読カードで自分の好きな本を読める日などの呼びかけをする。 ・読書週間の時期を検討する。
	温かな気持ちで人とかかわれる心の育成	・たてわり活動の中で，異学年集団とのかかわりを深める。 ・特別支援学級との交流を大切にし，仲間意識を育てる。 ・道徳の年間指導計画に沿った授業や，いじめ・思いやりについての内容を取り扱った授業を実践し，道徳的心情を高めていく。	A		コロナ感染拡大の影響で児童同士との関わり合いが難しいなか，タブレットの teams ソフトを使ったオンラインでの新たな交流を行うことで，異学年との仲を深めることができた。		コロナの影響で，高学年のがんばる姿を見ていない。低学年が高学年を見て，すごいねと思う機会をつくりたい。	・コロナ感染拡大の影響で集まることができない場合には，今後も，タブレットの teams ソフトを使ったオンラインでの交流を行う。
じょうぶな身体	基本的な生活習慣の定着	・元気カード，学年だよりや保健だよりで家庭に働きかけ「早寝早起き朝ごはん」を励行する。	B	B	元気カードや検温チェックカードなど，たくさんのカードがあるが大部分の保護者は意識して協力してくださっている。	B	規則正しい生活を身につけさせるには家庭との協力が必要不可欠である。	・委員会やおたよりで子どもの心に残るような啓発活動をしていく。
	粘り強く運動する子どもの育成	・運動場にチャレンジコーナーをつくり，外遊びを奨励する。	B		猛暑日，極寒の日等気候条件，コロナ禍での接触制限などがあるので数値が下がった。		遊具が少ないので子どもたちにとって魅力のあるコーナーをつくりたい。	・チャレンジコーナーを常時設置する。 ・委員会で，コロナ禍でも遊べる遊びを提案する。
	自分の命は自分で守る子どもの育成	・登下校の問題点を把握し，交通安全指導にあたる。	B		下校中にトラブルがあり下校の様子はいいとは言えないが数値は上がっている。		下校の仕方は，繰り返しの指導で意識づけをしたい。	・交通安全の指導の機会を増やす。特に，下校の仕方。
		・学級活動で室内での過ごし方や緊急時の避難，「牛川小学校のきまり」について話し合い，安全意識を高める。 ・新型コロナウイルス感染防止のための生活様式を考えて行動する。	B		校内での安全の意識は高まっているが，まだろうかを走っている子は多い。感染症対策として，長い放課の後は手洗いを呼びかけ，意識を高められた。		手洗い・消毒などの徹底は大変なことである。よく，定着してきていると思う。	・子どもへの安全指導の継続と同時に，ロッカー等の置き方など安全面からみた環境整備を行っていく。
信頼される学校	個を大切にした対応	・生活サポート全体会を定期的に行う。個人面接を伴う生活アンケートは年３回，いじめアンケートは月１回実施する。 ・必要に応じて臨時の生活サポート委員会を行う。 ・子どもや保護者からの相談に即時に対応する。	A	B	年度当初の情報交換会を密にしたことや生活サポート委員会などの定期的な情報交換が有効であった。アンケートごとに担任と個人面談したことが児童の数値の向上につながっている。	B	いじめを見つけるには，普段接する中での気づきを大切にしたい。アンテナを高くして，小さな変化を見逃さないようにしたい。	・保護者への連絡（電話，連絡帳等）を密にし，よいことも伝えるようにする。 ・年度当初の情報交換会や生活サポート委員会などの定期的な情報交換を次年度も継続する。
	地域教育力を生かした教育活動	・クラブ活動や学習活動におけるゲストティーチャーとして，地域や保護者へ幅広い招聘や参加の呼びかけをする。 ・教育活動に関連した地域の「ひと・もの・こと」の情報を整理し，地域教育力を学習活動に生かせるようにする。	B		保護者や子どもは，地域の方や保護者と行う活動を楽しみにしていることがわかる。それに対して教員はまだ地域の活用ができていないことがわかる。		見守り隊の写真が掲示してあるのは，学校の思いが子どもに伝わりやすい。牛川っ子の実情としてここを伸ばしたい，という取り組みをしてほしい。	・人材バンクを作成し，ジャンル別や教科など誰もがわかりやすく活用しやすいシステムを構築する。 ・生活科や総合的な学習で活用した「ヒト・モノ・コト」を随時人材バンクに追加していく。
	積極的な情報発信	・学校だより，学年だより，メール，ホームページによる情報発信を行い，学校の様子を家庭や地域に広く知らせる。 ・メール配信の中に学校 HP の URL を掲載する。 ・ホームページの「日々の記録」の中に学年フォルダーを新設する。	B		保護者の数値が昨年度より下がった。休校期間がなくなり，HP を見る機会が減ったのではないかと考えられる。		ホームページはあまり見る機会がない。手軽に見られるようにしたい。学校だよりは，校区へも回覧したい。	・学校からのメールには，HP の URL を常に記載する。 ・ひと月に一度は学年の HP「学校日記」を更新する。

【自己評価　　Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：あまり達成されていない　Ｄ：ほとんど達成されていない】

【総合評価　　自己評価をもとに 上記のＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ で評価】

【関係者評価　Ａ：適切である　Ｂ：概ね適切である　Ｃ：あまり適切ではない　Ｄ：適切とは言えない】